

第2回休眠預金等活用調査アドバイザーグループ会合概要

※ 本概要は事務局により整理したもの
休眠預金等活用担当室

日時：平成29年10月27日（火）15:00～17:00
場所：中央合同庁舎4号館2階共用第3特別会議室
概要：

<議事1 全体概要>

- 民間公益活動の促進とそのための仕組み創出に加えて、社会的インパクトの最大化が重要な成果であると合意された。

<議事2 報告書の内容に関する意見交換>

- 青柳氏より、現場団体及び資金分配団体における革新的なアプローチの例示が出された。
- 休眠預金等制度による支援から「卒業」した後の成長戦略について議論がなされ、成功事例を他地域で横展開する際の課題についての認識も共有された。
- 人材育成に係る施策、そのために休眠預金等を配分することについて具体的な提案があった。

なお、メンバーから出た主な意見は以下のとおり。

- 民間公益活動の場に企業等から人が流入する必要がある。
- クラウド・ファンディングの活用等、個人の寄付や投資の促進も有効な資金提供の仕組みとして含まれるべき。
- 協調融資をはじめ、複数の団体による協働を促す仕組みが有効では。
- 事業の段階や収益性を軸とした資金提供のあり方については、現場での創意工夫に基づいて柔軟とあるべき。

<議事3 その他>

- 堀内座長より、初めて読む人にもわかりやすくとこの指示。
- 報告書の中に追加すべき国内及び海外事例につき提案があった。
- 本調査アドバイザーグループが最終的な報告を行う11月10日の第7回休眠預金等活用審議会に向け、スケジュールを確認。